

## 果物がつないでくれたもの

東京都葛飾区立柴又小学校

五年 田中 楽

今年の冬、私の家に、母方の祖父母からは「みかん」、父方の祖父母から「りんご」が届きました。みかんやりんごはビタミンCが豊富でかぜの予防になるということで、遠くから送ってくれました。なかなか会えない祖父母達からの思わぬおくりものに、あたたかい気持ちになりました。

仕事が忙しい中、父もとうとうかぜをひいてしまっていたので、早く元気になるためにたくさん食べてほしいと思いました。父は、かぜでも朝はやく家を出て、夜おそく帰ってきます。その上、なかなかお休みもないので、私とは少ししか会うことができません。そんな時、果物が、私と父と一緒にいる時間をつくってくれるようになりました。果物を食べる時は、父と母と私は一緒にいることができます。その時に、会社や学校の色々な話をするようになります。りんごやみかんなどの果物は、私達家族にとってそういう意味でも必要です。

また、箱いっぱいに届いたりんごで皮むきの練習をしました。皮むきは意外と大変で、母もキッチンで皮をむいている私の姿を、ハラハラしながら見ていました。母がいつも野菜や果物を、こんな大変な思いでむいたり切ったりして、料理を作っているのだということを実感しました。そこで私は次の日に、一人で皮むきをし、むき終わった皮で文字を作ったりりんごの上にかざりました。とてもかわいくできたので母に見せると、大変喜んで写真をとってくれました。りんごは私と母の笑顔のもととなりました。

果物は家族をつなげるものかもしれません。私はこれからも自然に感謝しながら、健康のためにも果物をたくさん食べたいです。